

令和6年度（2024年度）第2回理事会より

3月に令和6年度（2024年度）第2回理事会を開催しました。

各事業部の重点取組の一部を抜粋致します。

●養成事業部：指導者の情報共有や親睦などを目的に指導者交流会の実施に向けて取り組みます！

●啓発・ユース育成部：社会課題の解決につながる活動内容の検討をします！

●広報部：広報誌のデジタル化や、SNSを活用した情報発信をさらに充実させていきます！

令和6年度（2024年度）一般会計収支予算書

科目	令和7年度（2025年度）予算	摘要
受取会費・受取助成金	550,000	年会費、助成金等
事業収益	676,000	講習会参加料・講師派遣
その他収益	1,000	利息等
経常収益計	1,227,000	
事業費	675,000	会場費、講師謝金、材料費等
管理費	552,000	事務局維持経費、郵送料、印刷費等
経常費用計	1,227,000	

キャンプ道について

表紙にあるコーナー「キャンプ道」は、北海道でキャンプ等の野外活動に情熱を注ぐ会員を紹介するコーナーです。

「道」という言葉には北海道の「道」を表すと共に、武士道や書道の様にある分野を極めていくことの「道」という意味を込めました。

キャンプ道に掲載を希望される方はおりませんか？

自薦他薦問いませんので事務局までご連絡ください。

かわら版バックナンバー

ご存知でしたでしょうか？

当協会の広報誌「かわら版」のバックナンバーを閲覧することができます！



ぜひ、Web ページよりご覧ください！

北海道キャンプ協会事務局

〒005-0862

北海道札幌市南区滝野 106 番地

NPO法人ネイチャープログラムデザイン内

TEL&FAX 011-596-9170

メール hokkaido@camping.or.jp

URL https://hokkaidocamp.com/

Web ページ



Facebook



発行：北海道キャンプ協会広報部

編集：長江 集子



かわら版

北海道キャンプ協会

2025 年
7 月号

キャンプ道



「春夏秋冬、定山溪を遊び尽くす！」

札幌の奥座敷、定山溪の温泉街でアウトドアアクティビティを提供している木村葵（あおたん）です！私たちの会社名は「フリルフスリフ」といいます。フが3つ続くので覚えにくいし、言いにくいです（笑）。なので「フフフ」と覚えてください！ちなみに「フリルフスリフ」はノルウェー語で「気ままなアウトドアライフ」という意味です。誰でも気軽に自然を感じられ、心身ともにリフレッシュできる場所でありたいという想いが込められています。

フリルフスリフでは、「川あそび」「野あそび」「ものづくり」の3本を軸に、定山溪ならではの多様なアクティビティをご用意しています。美しい渓谷を下るSUPやラフティング、カヌーといった「川あそび」。パウダースノーをモフモフかき分けながら歩くスノーシューや、焚き火を囲んでバームクーヘンを作る「野あそび」。さらには、温泉水を混ぜて作る石鯨や、定山溪の泉質から着想を得たバスソルト作りなどの「ものづくり」体験も楽しめます。どれも土地の「ならでは」を生かしたアクティビティです。

多種多様なアクティビティを提供していますが、お客様に安心して安全に自然を満喫していただくために、私が日頃から大切にしている言葉があります。それは「準備8割、当日2割」です。お客様の目には見えない部分、つまりこの仕事の裏側で、私が持つキャンプディレクター2級の資格が大きく役立っていると常々感じています。

例えば、その日の天候やお客様の年齢、体力レベルに合わせた安心安全なアクティビティの提案はもちろんのこと、滞りなくアクティビティを進めるためのリスクマネジメント、適切な装備の準備、そしていざという時の応急処置まで、挙げればキリがありません。自然の中では何が起きるか予測できないからこそ、考え得る限りの準備を徹底し、資格を通じて知識や技術を身につけておくことは、アウトドアガイドとしてお客様を迎え入れる上での安心材料であり、何より私の自信にもなっています。

春夏秋冬でさまざまな豊かな自然を見せてくれる定山溪。まだまだ温泉色が強いですが、この森の豊かさ、そして自然の雄大さを、一人でも多くの方に体感してもらえよう、今後もワクワクすることをフリルフスリフで創造し続けたいと思います！ぜひ一度遊びに来てくださいね！

木村 葵（野あそびベース フリルフスリフ）



「あそびばざーる 2025」 報告

今回で2回目となった札幌市青少年山の家主催事業「あそびばざーる 2025」はいろいろな団体やグループがあそびを持ちより、子どもたちはもちろん親も一緒にあそび機会を提供しています。今年は650人も参加者が足を運んでくれました。

1月18日、南区の滝野に位置する山の家周辺は豊かな自然に恵まれ、雪あそびに絶好の環境！私たちキャンプ協会のメンバーは、ティピーテントを張り、雪だるま・雪あそびゾーンを設置。コンテナやスコップもあり、子どもたちは初めて会った隣にいる子どもといっしょに一緒にあそび始めます。少し離れた場所には薪ストーブを設置。子どもたちに割ってもらった薪を子どもたち自身でストーブにくべてもらいました。ばちばち燃える音や、扉を開けて見える火の力強さに興味津々。ストーブの上に置いたやかんではグツグツとお湯が沸き、ホットレモンやココア、コーヒーなどを提供しました。雪だるま村にたくさんの雪だるまをつくる子どもたちを眺めながら、元子どもみなさんもゆっくり休憩していました。冬の厳しい寒さの中に生まれるホッとした時間。スタッフだけではなく、参加者みんなで作り出すこの雰囲気がなんともいえない素敵な空間を生みだします。キャンプの効能でしょうか。 山元 彩奈（公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会）



「ぎゅっとビレッジ」 報告

4月27日、札幌市手稲区にて当法人主催の体験イベント「ぎゅっとビレッジ」を開催しました。当日は総勢250名の方々に参加いただき、会場は活気に満ちあふれていました。

このイベントは、「あらゆる家庭に体験の機会を届け、子どもも親も幸せな時間を過ごしてほしい」という私たちの強い願いから生まれました。その思いに賛同し、14もの団体や個人の皆さんが準備段階から熱意を持って協力してくださいました。運営側の結束力が、会場全体の温かい雰囲気につながったと感じています。会場には、染物体験やリトミック体験、ジュニアライフセービング体験や性教育のお話など多彩なブースが並びました。

また、北海道キャンプ協会の協力のもと、協会ブースでは手作りのモルックを提供いただきました。小さな子どもでも楽しめるようにと工夫されたオリジナルルールのおかげで、多くの子どもたちが何度も挑戦し、夢中になって楽しんでいる姿がとても印象的でした！

出店者と参加者の垣根を越えて自然と笑顔があふれ、笑い合ったり語り合ったり、まさに「ぎゅっと」心の距離が近づく時間となりました。

長江 集子（NPO 法人こども共育サポートセンター）



キャンプインストラクター養成講習会 報告

5月23日（金）から25日（日）の3日間、キャンプインストラクター養成講習会が開催され、道内各地から9名の方々に参加いただきました。参加者の皆さんの温かい雰囲気と、互いに学ぶ姿勢が特に印象的な講習会となりました。

私が担当した初日の野外炊事では、皆さんの仲の良さに驚かされました。まるで友人同士で参加したかのように、初対面とは思えないほど互いを理解し、助け合う姿は本当に素晴らしかったです。その様子を見て、私はあえて最低限の説明に留め、皆さんの自主性に任せてみることに。すると、役割分担や協力、そして学び合う姿勢が自然と生まれ、作業は驚くほどスムーズに進みました。「もっと学びたい」という意欲から、たくさんの質問が飛び交い、有意義な時間の中で美味しいカレーライスが完成しました！

2日目には、キャンプディレクター2級（D2）の方々もサポートに加わり、指導を行いました。D2の方にとっては貴重な経験を積む場であり、急な依頼ではありましたが、参加者の皆さんの温かい協力もあり、堂々と指導を進めていました。会場は笑い声に包まれ、参加者とD2の間にはあったという間に仲間意識が芽生えていました。

今回の講習会を通じて、インストラクターを目指す参加者の皆さんの熱意と、他者の経験を積極的に学ぼうとする高い意識に感動しました。今後もD2の方々に協力していただきながら、指導者も参加者も共に学びあう機会が多くある講習会でありたいと思いました。

二杉 寿志（一般財団法人 おたる自然の村公社）



参加者の声 ～どのような気づきや学びがありましたか？～

※参加者アンケートより

- これまで自分自身経験してきたことと比較してより理解が深まりました。
- キャンプが子ども達にとっては、学びの場となる事が分かりました。
- 教育・組織キャンプの基本を学び自分の目指す形のスタイルが整理されました。
- 具体的な動植物の危険要因を自分のフィールドに置き換えて改めて考えるきっかけができました。
- 集団を結束させる技術や観察のポイントを学びました。
- 企画をする中で自分が楽しめないと参加者に思いを伝えることは出来ない。だが、企画側だけが楽しみ参加者の負担が増えるような組み立て方はどちらにも良いことがないことを学びました。

